

ビワ生育情報

千葉県
平成27年7月号

最近1年間の気象及びビワの生育状況

平成26年7月から平成27年6月までの月別の気象は表1に示した。月平均気温は平成26年7～9月は平年並みか下回り、平成26年10月～平成27年5月は12月を除き平年を上回った。6月は平年を下回った。この1年間の平均気温は15.6℃で平年並みであり、月別にみても寒暖の差が比較的少ない年であった。

時期別の気象とビワの生育状況を振り返ると、平成26年の梅雨明けは7月21日で平年並み、梅雨明け後から夏の間は気温は平年並みかやや低く推移したが、花房の発現は平年よりやや遅く、花房の着生率は平年より高かった。冬の訪れはやや遅く、開花の進みは早かった。関東に接近した台風は6個あり、一部では潮風害による樹勢の低下がみられた。冬は厳しい寒さが少なく(最低気温-3.0℃以下の日が0日)、花及び幼果の寒害は平年より少なかった。果実の生育は11～2月は平年並みに進み、3月以降の高温で平年より早く進み、最終的には収穫盛期は平年より4～8日、前年より8～9日早かった。

表1 平成26年7月～平成27年6月の気象(暖地園芸研究所)

年	月	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
H26	7	24.4	24.4	24.6	55	180	57	203	175	189
	8	25.5	26.0	26.9	62	138	32	213	220	254
	9	21.7	22.9	23.2	122	227	186	180	146	187
	10	18.1	18.0	19.0	305	261	455	141	137	130
	11	13.8	13.2	12.5	67	146	119	130	144	173
	12	7.6	8.5	7.8	131	94	75	195	166	180
H27	1	6.0	6.0	6.5	120	87	90	131	169	158
	2	6.4	6.3	5.9	89	103	142	167	151	120
	3	10.3	9.2	9.7	195	182	167	199	154	180
	4	13.8	13.8	13.3	167	169	166	130	166	191
	5	18.9	17.7	18.1	74	178	162	179	186	248
	6	20.4	20.8	21.2	229	251	334	134	135	159
平均/計		15.6	15.6	15.8	1,616	2,016	1,985	2,002	1,949	2,169

平年：昭和60年～平成26年の平均

本年度産果実の特徴

1. 熟期

収穫期は表2に示した。暖地園芸研究所における収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、「楠」が5月28日、5月30日、6月2日、「大房」が5月29日、6月2日、6月4日、「田中」が6月1日、6月8日、6月11日で、3品種共に、前年及び平年より早かった。花房の発現はやや遅かったが、開花の進みが早く、寒害も少なく、1月以降は天候に恵まれたため、幼果の生育は順調に進んだ。収穫期直前に降雨が集中した影響で、生理落果が多くみられ、収穫期間は短かった。

表2 収穫期(暖地園芸研究所)

品 種	収穫始期(月.日)			収穫盛期(月.日)			収穫終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	5.28	5.30	6.2	5.30	6.3	6.8	6.2	6.7	6.10
大房	5.29	6.4	6.8	6.2	6.8	6.10	6.4	6.12	6.12
田中	6.1	6.12	6.14	6.8	6.16	6.16	6.11	6.20	6.18

平年：昭和61年～平成26年の平均

2. 果実の大きさ及び収穫量

収穫果実の大きさと品質は表3に示した。果重は「楠」が50g、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ78g、67gであった。3品種共に平年より7～11%下回った。5月の高温の影響で、十分に肥大する前に着色した果実が多かったと思われる。

横径は「楠」が4.4cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ5.1cm、4.8cmであり、3品種共に平年を下回った。縦径は「楠」が4.4cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ5.4cm、5.3cmで、3品種共に平年を下回った。

果形指数は「楠」が0.99、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.95、0.91であった。「楠」は平年より横長、「大房」及び「田中」は縦長の果形であった。

本年の着花房率は平年より高く、寒害の被害が少なかったため、最終的な着果量は3品種共に平年より多く、果樹カメムシの被害も少なかったため、収量は平年より多かったが、花着きが良い年が続いた影響で、前年までの結実管理が十分でなかった樹では樹勢の低下がみられ、収量がやや少なかった。

3. 糖度及び酸度

糖度は「楠」が12.7、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ11.0、12.1で、3品種共に平年より高かった。

酸度は「楠」が0.18、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.15、0.30で、「楠」及び「田中」は平年並か高く、「大房」は平年より低かった。

4. 食味

果実硬度は「楠」が0.43、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.49、0.46で、3品種共に平年より軟らかかった。

糖酸比は「楠」が69、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ75、41で、「大房」及び「田中」は平年より甘味を感じやすく、果肉も軟らかかったため、良好な味であった。

5. 病害虫及び生理障害の発生

本年は果樹カメムシのフェロモントラップ誘殺数が平年より少なく、産地における発生量は平年より少なかった。クワゴマダラヒトリの食害は平年より少なかった。病害では、がんしゅ病の発生はやや少なかった。生理障害では、収穫期直前の降雨の影響で「田中」を中心に裂果の発生が多かったが、そばかす、日焼け、紫斑症の発生は平年並みであった。

表3 果実の大きさ及び品質

品種	調査地	果重(g)		横径(cm)		縦径(cm)		果形指数		糖度(Brix)		酸度(g)		硬度(kg)		糖酸比	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
楠	暖地園研	50	54	4.4	4.5	4.4	4.8	0.99	0.95	12.7	12.3	0.18	0.15	0.43	0.53	69	80
	青木	68	80	4.9	5.3	5.1	5.4	0.95	0.99	11.1	10.4	0.14	0.15	0.48	0.57	80	70
	平均	78	80	5.1	5.3	5.4	5.4	0.95	0.98	11.0	10.7	0.15	0.17	0.49	0.58	75	62
大房	南無谷	85	77	5.2	5.2	5.7	5.3	0.92	0.98	10.6	10.4	0.14	0.17	0.50	0.57	77	60
	暖地園研	83	83	5.3	5.3	5.4	5.5	0.98	0.97	11.4	11.2	0.17	0.19	0.49	0.59	68	59
	平均	78	80	5.1	5.3	5.4	5.4	0.95	0.98	11.0	10.7	0.15	0.17	0.49	0.58	75	62
田中	青木	64	73	4.8	5.0	5.0	5.4	0.95	0.93	11.8	11.1	0.39	0.28	0.45	0.56	31	40
	南無谷	68	72	4.8	5.0	5.5	5.5	0.87	0.90	12.5	10.0	0.29	0.32	0.48	0.57	43	31
	暖地園研	68	80	4.8	5.2	5.2	5.6	0.92	0.92	11.9	11.3	0.23	0.30	0.47	0.57	51	38
平均	67	75	4.8	5.0	5.3	5.5	0.91	0.92	12.1	10.8	0.30	0.30	0.46	0.57	41	36	

果形指数：横径/縦径 糖度：屈折糖度計の測定値 酸度：果汁100ml中の酸含量をリンゴ酸(g)に換算した値

硬度：果実硬度計による測定値 糖酸比：糖度/酸度

平均：3地区の平均、平年：昭和61年～平成26年の平均(但し硬度は平成12年～平成26年の平均)、ただし、南無谷は平成27年から圃場を変更し、異なる圃場の平均(※次年度産から圃場変更の文章は省略)

8月～10月の作業

8月下旬から9月下旬までがせん定及び施肥の適期となる。花芽は9月中旬頃には確認できるようになり、10月に入ると発育が進み、花房の形を表し、10月上中旬には摘房・摘らいの作業が始まる。

せん定

8月下旬から9月中旬に行う。徒長枝や混んでいる枝を間引いて、樹冠内部に光が入るようにする。作業の効率化を図るため、二段盃状形の樹形を目指し、低樹高化に努める。

施肥

9月に基肥を施用して花房の伸長、充実を図る。耕土の浅い園では10a当たり成分量で窒素12kg、リン酸9kg、加里9kgを施用し、耕土の深い園ではそれぞれ11kg、9kg、7kgとやや少なめにする。

摘房・摘らい

摘房は発育不良の花房や混み合った花房を間引き、1樹の全枝の半数に花房を残す。

摘らいは花房基部から3段目までの小花梗の中から充実した2段を残して他をかき取る。花房の長さが3～5cmの時に摘らいすることで、開花期間を延長させることができ、寒害の被害を受けにくくすることができる。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>